

☆ 授業のヒント

今回は、かなの基本的な書き方の学習方法を取り上げました。今回は、楽しくかなを覚える方法をご紹介します。

テーマ かなを楽しく覚えよう

目的 もくてき
・かなを楽しく覚える たの おほ
学習者のタイプ がくしゅうしゃ
・初級（入門）レベル しよきゅう にゅうもん
クラスの数 にんずう
・何人でも なんにん
準備するもの じゅんび
・テープやCD、文字カード、日本語で書かれた広告やメニュー、お菓子の箱、漫画や雑誌などのレアリア

◆あいうえおの歌

50音の文字を覚えるには、まず、学習者は50音にはどんな音があるのかを知らなければなりません。そのために「あいうえおの歌」を紹介するのは一つのアイデアです。学習者は歌を通じて自然と日本語の50音に慣れ親しむようになります。その際重要なことは、学習者が興味を持ちそうな曲を選ぶことです。音楽の好みは学習者の年齢や国によっても違います。例えば、初等教育段階の学習者なら、次の例のような童謡のメロディーを使った「あいうえお」の歌が望ましいでしょう。

「あいうえおはよう」(キラキラ星)

あいうえおはよう かきくけ こんには
はひふへほんどうに まみむめ むういちど
さしすせ ぞうですか たちつて どんでもない
やいゆえ よろしく らりるれ ろまんす
なにぬね のんびり それではつぎを うたいましょう
わいうえ おもしろい んでどうどう おわり
(フランス民謡)

一方、中等教育段階の学習者は、童謡のリズムだと恥ずかしがって歌わなかったりします。そういう場合には、彼らに人気のあるロックやラップの音楽に、50音と簡単なあいさつや曜日などを入れて作ったオリジナルの「あいうえおの歌」があればより効果的でしょう。また、大人向けには、例えばブラジルならサンバなど、その国々で親しまれているメロディーを取り入れるのもいいでしょう。

◆文字カードゲーム

一通り文字の導入をしたなら、楽しく文字を読む練習をして記憶を強化しましょう。今回紹介するゲームは、文字カードを使って仲間と競争する「あいうえおカルタ」です。

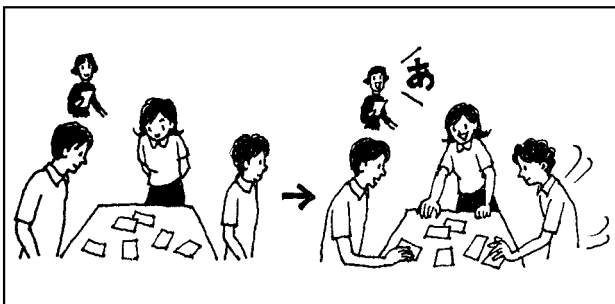
「あいうえおカルタ」
 <準備> 50音のひらがなあるいはカタカナの文字カード×グループの数

クラスの数が多くてカードの準備に時間がかかる場合は、学習者に宿題として文字カードを作らせたり、ゲームをやっている人を応援するチームを作って、ゲームを見学させるなど工夫しましょう。

- <手順>
1. クラスを1グループ3～5人のグループに分けます。
 2. 各グループに文字カードを配ります。
 3. 学習者にカードの文字面を上にして広げさせます。
 4. 教師は、文字を1つずつ読み上げ、学習者はその文字カードを取ります。
 5. 一番たくさんカードを取れた人が勝ちです。

<アドバイス>

このゲームは全ての文字を導入した後のほうがもっと面白くなりますが、まだ、文字を全部覚えていない段階でも学習しただけの文字を使っていることができます。カードゲームのよいところはゲームの勝敗が学習者の学習のモチベーションになることと、ゲームを進めるために自分の時だけでなく、他の人の時も正しくできているかどうかを学習者同士でチェックしなければならないことです。ただ、この「あいうえおカルタ」の場合、グループ分けに気を付けないと、いつも勝者が同じになってしまう恐れがあります。勝者がいつも同じだと、学習者のやる気にも影響が出てきます。グループ内に能力差がある場合、いつも勝つ人は、先生が文字を読み上げるまで後ろを向かせたり、文字カードを読み上げる役をさせるなどルールを変えて、上手に学習者全員のやる気を引き出しながらやるとよいでしょう。この他にも、ゲームの勝ち負けが運の部分もあるカードゲームとして、「あいうえお神経衰弱」や「あいうえお七並べ」、「坊主めくりゲーム」などがあります。これらのゲームについては、参考文献にあげてある『日本語コミュニケーションゲーム80』(The Japan Times) や『Bits and Pieces』(Kodansha) を参照してください。なお、競争をするゲームの場合、年少の学習者は自分が勝つまで何回もやりたがったり、騒がしくなったりしがちです。そういう時は、前もって、ゲームは何回やるのかを約束させたり、騒いだ人はカードを戻させるなど、ルールを決めてやりま



このコーナーの担当者：小玉安恵、篠崎摂子（日本語国際センター専任講師）

読者の皆さんからのアイデア、成功例、失敗談などぜひお寄せください。

しょう。

◆レアリアを使った練習

かな文字が大体一通り認識できるようになったら、今度は実際に生活の中で使われている文字を読む練習をしてみましょう。その際、例えば、日本語で書かれた実際のメニューや広告、学習者が関心を持っている日本の漫画や雑誌などのレアリアが教材として使えます。下に挙げた例は、人気アニメ「とっとこハム太郎」の公式ホームページの一部です。



©河井リツ子/小学館・SMDE・テレビ東京

教師は、教室をまわったり、学習者同士で自分達の読める部分を確認させたりして、正しく読めているかどうか確認してあげましょう。この練習は、学習者に生活の中で意味のある文字を読む喜びを与えるだけでなく、彼らの学習意欲も高めるでしょう。

参考文献 / ホームページ

- 『日本語コミュニケーションゲーム80』The Japan Times
- 『初級日本語ドリルとしてのゲーム教材50』アルク
- 『Bits and Pieces』Kodansha
- <http://www.cocos-jpn.co.jp/cocos/menu>

※最後に、「あいうえおはよう」の歌詞の作者や作られた時期などについて情報をお持ちの方は、情報をお寄せください。